

# 大ナイゴ沢復旧対策に関する検討委員会

## 【第3回検討委員会 概要】

日時: 令和5年1月11日(水)13:00~15:00

場所: タウンホテル村上 2Fホール

### 議事進行内容

- (1) 開会
- (2) 挨拶  
関東森林管理局 計画保全部 治山課長
- (3) 出席者紹介
- (4) 座長挨拶
- (5) 議事
  1. 第2回検討委員会の指摘と対応
  2. 8月豪雨による荒廃の変遷
  3. 施設等整備計画(修正計画)
  4. 今後の監視計画
- (6) 挨拶  
下越森林管理署村上支署 支署長
- (7) 閉会

### 検討会出席者 別紙1\_出席者名簿のとおり



検討委員会の状況

## 【委員からの意見】

- ・ 湛水池の不安定化が懸念されるので、現況について記載してほしい。現況では大きな不安定化は確認されていないようだが、引き続き注視していく必要がある。
- ・ 地すべり部の斜面安定解析については、2次元解析では測線位置の評価しかできないため、この結果を以て安全率が低下していないと言い切るのではなく、解析の前提条件などをふまえた表現にすべきである。
- ・ 地すべり部の断面図において、豪雨後に地すべり頭部が40cm程度低下しているとのことだが、差分図による詳細な変状の確認やLP測量の標高方向の精度確認を行うこと。
- ・ 地すべり部の末端が地形的に解放されており、頭部が沈下しているとする、変動が大きくなる可能性があるため、今後の監視が重要である。
- ・ 8月の豪雨後では、地すべり部本体の土塊には変化はなかったものの、末端部で崩壊が発生していることから、今後本体がより不安定になって移動することが懸念される。そのため、地すべり頭部の外側での変化も含めて地すべり部本体の定期的な監視が必要であり、これらの移動があることも考慮したうえでの計画立案が必要と思われる。
- ・ 8月豪雨後の調査により把握できた状況を踏まえ、一部見直しを行った施設配置となっており、整備率の考え方も概ね妥当であると思うことから、当面は、これで進めてよいと思う。
- ・ 地すべり部の変動が少ないことが前提条件となっているため、大規模な変動が発生した場合の危機管理的な視点からの計画も検討すべきである。
- ・ 段階1の濁水の監視では、融雪期の異常時の判断方法(異常がない通常時との比較方法)をより具体的に示した方がよい。
- ・ 段階1で異常が確認された場合、UAVにて現地確認をすることになっているが、現状として地すべり部の不安定化が懸念されるため、異常が確認されなかった場合においても定期的にUAVによる確認を実施すべきである。